

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会（令和3年度第2回）
開催日時	令和4年3月30日（水） 午後2時から午後4時まで
開催場所	岩倉市役所7階 第2・3委員会室
出席者	<p>児玉善郎委員長 河村芳彦委員 山田育代委員</p> <p>飯田賢委員 馬路才智委員 小笠原三代子委員</p> <p>関戸誠委員 関戸八郎委員 田中愛子委員</p> <p>尾関憲明委員</p> <p>健康福祉部長（山北由美子） 福祉課長（石川文子）</p> <p>福祉課障がい福祉グループ長（片桐慎治）</p> <p>福祉課主任（渡邊拓己）</p> <p>社会福祉協議会 事務局長（若杉賢司）</p> <p>社会福祉協議会 主査（石井太一）</p> <p>岩倉市地域福祉計画策定支援事業受託事業者 （ジャパンインターナショナル総合研究所）</p> <p>アドバイザー：日本福祉大学 社会福祉学部 教授（原田正樹）</p>
欠席者	なし
説明者	福祉課障がい福祉グループ長（片桐慎治）、主任（渡邊拓己）、受託事業者
会議の議題	<p>（1）第2期岩倉市地域福祉計画の事業進捗と推進について</p> <p>（2）第3期岩倉市地域福祉計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期岩倉市地域福祉計画における施策等評価について ・アンケート調査実施結果について ・住民地区懇談会実施結果について <p>（3）基本理念の設定について</p>
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	<p>資料1 岩倉市地域福祉計画推進委員会委員名簿</p> <p>資料2-1 第2期岩倉市地域福祉計画（平成30年度～令和3年度）の進捗状況について</p> <p>資料2-2 第2期岩倉市地域福祉計画いわくら福祉市民会議の実績</p> <p>資料2-3 令和4年2月15日の顔の見える連携交流会アンケート結果</p> <p>資料2-4 第2期岩倉市地域福祉計画における顔の見える連携交流会実績まとめ</p>

	資料2-5 総合相談シート（案） 資料3 第2期岩倉市地域福祉計画における行政の支援計画評価 資料4 第2期岩倉市地域福祉計画における社協の支援計画評価 資料5 支援計画評価まとめ 資料6 市民アンケート調査結果報告書 資料7 「第3期岩倉市地域福祉計画」策定にかかる住民地区懇談会 結果報告書 資料8 岩倉市地域福祉計画理念について 参考 岩倉市地域福祉計画における地域の範囲について 参考 統計からみる岩倉市の現状
公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	なし

1 あいさつ

2 委員自己紹介

3 委員長の選任について

新委員として日本福祉大学学長の児玉善郎氏が委員の承認により就任。また、アドバイザーとして日本福祉大学社会福祉学部教授の原田正樹氏が就任。

4 議題

（１）第２期岩倉市地域福祉計画の事業進捗と推進について

資料２－１から資料２－５を用いて事務局から説明。

委員：庁内連携会議について。どのような課のどのような立場の人がこの会議に参加しているのか。

事務局：参加するメンバーの役職は課長、グループ長級である。参加している部署は秘書企画課、協働安全課、税務課、環境保全課、健康課、商工農政課、都市整備課、学校教育課、子育て支援課である。また、事務局として福祉課、長寿介護課、社会福祉協議会で実施している。

委員：この会議に相談者が来る可能性があるのか。

事務局：相談者がこの会議に来るわけではない。相談者を支援するための市の体制を検討していくという組織である。

委員：個人情報が出ることによって相談をためらうのではという懸念についてはどうか。

事務局：会議に相談者が来るわけではない。あくまで庁内のものだけである。

委員：例えば、子育て支援課に相談があった時に他の課から支援できないか、ということを考えるための会議なのか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局:そのような体制づくりをしていくための会議である。

委員長:コロナ禍によりこの2年はいわくら福祉市民会議が十分な活動を実施できない状況であった。しかし、工夫を重ねて少しずつ取り組んでいることが確認できた。

委員 :いわくら福祉市民会議は各校区で実施の有無があるが、継続的に実施することが将来的にも大切である。テーマ的に実施して終わりではなく、内容を精査しながら将来を見据えて継続することが大事である。

委員長:第2期岩倉市地域福祉計画の進捗を踏まえつつ、第3期岩倉市地域福祉計画の策定を進めていくので、議題を進めながら第2期岩倉市地域福祉計画に関して何かコメントがあればお願いしたい。

（2）第3期岩倉市地域福祉計画の策定について

・第2期岩倉市地域福祉計画における施策等評価について

資料3から資料5を用いて事務局から説明。

委員 :評価方法について。自己判断の調査であれば出来高の評価となり、概ねAという結果となるが、それが効果に結び付いているかを判断する必要があるのではないか。

事務局:今後の評価方法については今回の振り返りを反映していく必要がある。確かに、自己評価となり甘い判定になりやすく、客観的な視点で見ると効果に結び付いていないという判断の場合もある。例えば、評価結果を第三者の岩倉市地域福祉計画推進委員会で諮りフィードバックを行うという仕組みを構築することや、指標のような明確に判定できる基準を計画に設定することが必要となる。評価方法に関しては第3期計画の課題となる。

委員長:どういう成果が得られたのか、残された課題は何かについて客観的に把握し、今後の取り組みに活用することが重要となる。

委員 :サロンの活動状況について。サロンの大切さをコロナ禍でより強く感じる。自宅開放なども2年できていないのが現状である。現状で地域がどのような活動をできているのか、もしくはできていないのかを知りたい。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局: サロンについては正確な資料がないが、元々20いくつかの住民主体によるサロンがある。そのうち、最初の緊急事態宣言時に全てのサロンが休止となった。その後、まん延防止等重点措置時などでは、10程度のサロンが開催された。ただし、開催時間の短縮や参加人数の制限を設けてサロンを開催した。また、活動内容はレクリエーションや歌を歌う、茶菓子の提供は行わず、短時間で会話を楽しむなどである。残りの半数は制限の有無に関係なく感染リスクの観点から活動をしていない。中止してそのまま解散しているサロンも存在している。

委員 : サロンを運営する住民の話し合いの場はあるのか。

事務局: コロナ禍以前はサロン情報交換会を開催していた。その後コロナ禍で開催できていない。サロンの活動に関しての相談がいくつかあり、厚生労働省などの資料を集めて、コロナ禍におけるサロン活動の留意点に関する資料の提供を行っている。しかし、対面やオンラインでの情報提供は現時点ではない。

委員 : サロンを運営する住民は不安を抱えて活動している。どのような形でサロンを活動しているのかを知りたかった。

事務局: オンラインを活用したサロン活動支援を実施しているところもある。少人数の参加であっても自宅とサロン会場を繋ぐということである。例えば、自宅でピアノを演奏してそれをサロン会場の参加者が聴くという事例がある。また、サロンに参加できない人のために、サロン会場の支援者が自宅に訪問してオンライン接続を行い、サロン会場の参加者と交流するという事例もある。オンラインを活用したサロン活動を行っていききたい。

委員長: 地域で人と人がつながり続けることは非常に大事である。体調に変化をもたらすことや介護予防的なことにもつながる。コロナ禍がいつまで続くか分からないが、色々な工夫をしながら取り組むことが大事である。

・アンケート調査実施結果について

資料6を用いて事務局から説明。

委員 : アンケート調査の結果は、愛知県の中で岩倉市の特徴的な結果であるのか、もしくは愛知県の中で類似した結果であるのか。また、愛知県ではどのような取り組みを行っているのか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局:他の自治体で全く同じ質問をしていないため、単純な比較は難しい。ただし、他の自治体においても自治会への参加者が減少していることや地域活動への参加の興味・関心を持つ人が減少している、という傾向がみられる。

委員 :地域の活動に参加する思いがあっても参加しづらい人がいるのではないかと思う。地域の活動内容や参加者の感想などの情報があれば、そのような人も参加したくなるのではないか。何か方法がないかと思案している。

委員 :今の意見に関して地域差があると思う。岩倉市においても近所付き合いのある田舎と都会的な場所での地域差があるのではと感じる。

委員 :アンケート調査は定期的に市民の意見を集約される点では有効であると思う。ただ、アンケート配布数 2,000 枚に対して回収数が 554 枚と市民全体の意見を把握する点では回収数が少ないのではないかという心配がある。

事務局:回収率が 27.7%と低い結果となったのは課題であるが、全体の傾向を理解するうえでは問題がないのではないかと思う。サンプル数が少なかった原因として、調査の実施手法に問題がある、興味や関心がないなどが挙げられるが明確な原因は分からない。

委員 :回収率が少ないのではないかと思ったが、アンケート結果の内容を見ると体感的にアンケート結果と市民全体の意見に大きな相違はないと思う。単に回収率を増加させることはどうかと思う。

五条川小学校にはコミュニティがあるのが良い。子ども会の加入率も五条川小学校は 7 から 8 割と非常に高い。他の小学校でも取り入れられないか。大変であると思うので最初は行政が行うことが望ましいのではないか。全体としてコミュニティがある方が良いと思う。

委員: 地域のコミュニケーションを広げる事例として、各地域で歴史などの特徴を探す活動がある。この活動を市の広報やホームページで取り上げると良いのではないか。

委員長:全ての項目ではないが、前回、5年前に行われたアンケート結果と今回の結果を比較で、地域の活動への参加が減少していることや、人が集う場がないこと、災害への意識の変化を読み取れる。コロナ禍の影響で、地域活動への不参加やサロンが中止となり、集まる場がないという結果となっているのではないかと思う。5年前からの推移とコロナ禍による影響の両方を考慮して、第3期岩倉市地域福祉計画でどのように取り組むべきかについて検討していく必要があるのではないか。

・住民地区懇談会実施結果について

資料 7-1 と 7-2 を用いて事務局から説明。

委員：コロナ禍によって懇談会の参加者の人数を制限したのか。

事務局：当初は各小学校区で開催を予定していたが、コロナ禍により参加申込者が少なかった
ので、校区で日程を分けずに 2 日に分けて開催した。

委員：懇談会に参加することが得になるような工夫はできないか。具体的に犬の飼育マナ
ー教室の実施である。何か住民が関心のある内容を実施してほしい。

委員：参加者に地区長が多かったが、事前にその人たちに案内をしたのか。

事務局：案内をしたのはいわくら福祉市民会議の参加者と地区長である。また、アンケート
に同封、ロコミも行った。

委員：参加した際に、参加者は P T A など若い人が多いと思っていたが、実際の参加者は
高齢の方が多かったので、懇談会の必要性に疑問を感じた。テーマの内容に疑問も感
じたが、様々な人と話す機会となり参加してよかったと感じた。

委員長：様々な年代の住民が参加する懇談会があるとより良い。

委員：懇談会のために時間を作る余裕がある住民は少ない。地区長を筆頭にコミュニケー
ションを行う機会を定期的に設け、住民の意見を集約する必要がある。聞きたい人の
意見を委員会等で反映できないと思う。この問題を解決するための何か良い方法はな
いか。

委員：第 2 期岩倉市地域福祉計画に関して他の住民の意見を伺いたいこと、どのように自
分に関わるべきかを知るために参加した。最初は仕方なしで参加した住民もいたかも
しれないが、ファシリテーターの進行方法が上手で参加者の意見も前向きであり、非
常に盛り上がった。参加して信頼関係やつながりの大切さを改めて感じた。

委員：あるまちで、行政が夜の 19:00 からテーマを与えて話し合う会議を行い、市民の 48%
が参加するようになったことがある。現在、若い世代の意見を聞こうとしても彼らは
会議に参加できない。これが 1 番の課題ではないか。若い世代から「役員になるなら

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

辞める」という言葉が簡単に出る。行政が予算を使って会議を行うとなっても自己理由により参加しない人が多い。そのため、行政が何かテーマを掲げて人を集めて会議を積み重ねて行く必要があるのではないか。また、アンケート回収率 27%は少ないと感じる。実際、若い世代はアンケートに回答する時間がないと思う。若い世代の意見を集める方法を考えることが大事だと思う。

委員長:委員の皆さんの意見は岩倉市に限らず全国各地での共通の問題ではないか。今は自分の生活で多忙である人も、実際の社会でつながり、ともに支え合いながら生きることを我が事として考えて行動することが求められる。そのため、第3期岩倉市地域福祉計画を通じて、いかに多くの市民の住民に我が事と考え行動してもらうことを実現させるかが1番重要であることが明確になったのではないか。

（3）基本理念の設定について

資料8を用いて事務局から説明。

委員長:第3期岩倉市地域福祉計画の基本理念について大筋合意を本日の委員会で得たい。

委員 :住民が自ら行動するという意味で案2が良いと思う。

委員 :住民に関心を持ってもらうという意味で案2が良いと思う。

委員 :様々な分野のボランティアがあらゆる場所で住民と交流できればという意味で案2が良いと思う。

委員 :案2が良いと思う。

委員 :案1の「安心できる、心がつながる」を案2につなげてもいいと思う。

委員 :案2の「みんなが主役の地域づくり」が目標として明確であるという意味で案2が良いと思う。

委員 :「関心を持ってつながり」であれば分かりにくいので、案2の内容で「安心」という言葉を含めるのはどうか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員：案2が良いと思うが、案1の「心つながる」は大事であると思う。関心を持つだけでは人のつながりは薄くなることも考えられる。例えば、「関心を持って、心つながり、支え合う」はどうか。

委員：計画内容はこれで良いと思う。しかし、一生懸命取り組んでも一緒に実行する住民が少ない。そのため、住民に興味を示すような内容を示す必要がある。

委員長:案2を基準に「心がつながる」を入れてはどうかということであった。

事務局:「安心できる、心がつながる、支え合う、みんなが主役の地域づくり」を案3とするなどして検討する。

委員：「みんなが主役の地域づくり」は重要だと思う。

5 その他

委員：ヤングケアラーに関して岩倉市の考えや対応は何かあるか。

事務局:学校を通してアンケート調査を実施されているが、学校教育で行っているため、まだ福祉では把握できていない。アンケート対象学年は小学5年生、中学2年生、高校2年生である。結果については次回の会議で報告する。

委員長:今回同席したアドバイザーの原田先生は今後、計画策定に向けて事務局に事前にアドバイスをを行う。

アドバイザー:岩倉市では人のつながりが希薄となっている。岩倉市を住みやすいまちにするために何ができるか、その仕組みを計画の中で考えていくべきである。ただし、仕組みが構築できても一人ひとりの意識を変える必要がある。そのために、案を出し合い岩倉市らしい計画が完成できればと思う。

事務局:来年度中に計画を策定する。会議も5回ほど開催する予定である。日程はなるべく早く連絡するので、可能な限り参加をお願いしたい。

以上